

53 大学令による大学設立（大正九年四月）

〔欄外注記1〕

〔欄外注記2〕

(欄外注記3)	
大正九年一月八日案起 主任 回 内務部長(岩田印) 学事兵務課長(小栗印)	大正九年四月十六日案起 主任 回 内務部長 学事兵務課長(小栗印)
進 達	下 付
財団 中央大学理事 法人 中央大学理事 大学令ニ依リ大学設立 認可願 右第三式經由印ヲ捺シ 文部省へ進達スルモノトス	同上ニ対スル指令 大正九年四月十五日 認可 右第四式經由印ヲ捺シ 神田郡区役所へ送付 スルモノトス

御進達願

(欄外注記4) 大学令ニ依リ大学設立致度候ニ付別冊認可申請書主務省へ御進達被成下度此段奉願候也

大正八年十二月二十六日

東京市神田区錦町二丁目二番地

財団 法人 中央大学学長理事

法学博士 岡野敬次郎 回

東京府知事 阿部 浩殿

割印

前書出願ニ付奥印候也

大正八年十二月二十六日

東京市神田区長 山県鉄藏 印

大学設立認可申請

大学令ニ依リ大学ヲ設立致度候ニ付御認可相成度大正八年文部省令第三十九号大学規程ニ遵拠シ此段申請候也

大正八年十二月二十六日

東京市神田区錦町二丁目二番地

財団法人 中央大学学長理事

法学博士 岡野敬次郎 印

文部大臣 中橋徳五郎 殿

申請

今般私立大学設立申請致候ニ付テハ大学令第七条第二項ニ從ヒ供託スヘキ金額及ヒ同第十七条規定ノ専任教員ハ向後六ヶ年間ニ漸次充足致度候間御認可相成度此段申請候也

大正八年十二月二十六日

財団法人 中央大学学長理事

法学博士 岡野敬次郎 印

文部大臣 中橋徳五郎 殿

一、大学ノ名称

二、学部ノ種類及名称

(一) 法学部 (二) 経済学部 (三) 商学部

三、大学院及大学予科ノ設否

法学部、経済学部、商学部ニ研究科ヲ設ケ之ヲ綜合シテ大学院ヲ置ク

大学予科ヲ設ケ法学部経済学部ニ属スルモノヲ第一部ト称シ商学部ニ属スルモノヲ第二部ト称ス

四、学則

別冊ノ通

五、位置及校地

東京市神田区錦町二丁目二番地及五番地

地質 沖積層

飲料水ノ定性分析表 水道

六、校舎図面

別紙ノ通

七、各学部及予科学生定数

別紙ノ通

八、各学部及予科専任教員

別紙ノ通

九、開校ノ期日

大正九年四月一日

十、経費及維持ノ方法

別紙ノ通

学生定数

一、法学部	四百名
二、経済学部	二百名
三、商学部	三百五十名
四、予科	九百六十名

各部教員定数及専任教員数

	定員	専任	兼任
法学部	十二人	六人	六人
経済学部	九	五	四
商学部	七	四	三
計	二八	一五	一三
予科	二五	一五	一〇

収入表

収入ノ部

入学料	二、〇〇〇円
授業料	一〇七、〇五二
試験料	五〇〇
雑収入	一、〇〇〇
供託金利息	二八、〇〇〇
計	一三八、五五二

維持ノ方法

大学令ニ依ル供託金ノ利子及ヒ授業料等ノ収入ニ依リ維持スルモノトス而シテ基金寄附申込総額金七拾万四千四百五拾参円也
(基金寄附者各自ノ申込額及ヒ姓名別冊ノ通り)

支出ノ部

教員給	一〇九、一二五円
事務員、雇員及傭人給	一〇、一五〇
器具費	九五〇
図書費	三、五〇〇
修繕費	五〇〇
印刷物費	三、五〇〇
諸税及保険料	二、〇〇六
電燈、電鈴、電話及瓦斯費	三五五
学生費	三、〇〇〇
雑費	三、四六六
予備費	二、〇〇〇
計	一三八、五五二

旧校舎

二階建ニシテ総坪数八百六坪五合六勺階下ハ煉瓦建二階ハ木造ニシテ外部ハ一部化粧煉瓦張附一部人造石塗りニシテ内部ハ漆喰塗り家根ハ天然スレート葺家根窓ハ回転戸硝子嵌メ込昇降口四箇所各室出入口一箇所乃至二箇所採光ハ各室床面積ノ約六

分ノ一ノ採光面積ヲ有スル窓ヲ設ク換氣ハ各室窓及入口欄間ハ
 回転トシテ通風ニ供シ其他天井ニ空氣抜ヲ配シテ天井ト階上床
 トノ空間ヘ抜キタリ
 右ノ外詳細ハ図面ノ通
 外ニ便所二箇所学生控所一箇所(二十四坪)擊劍柔道ノ道場一
 箇所(三十五坪)物置一箇所(六坪)小使室一箇所(十八坪)
 此内学生控所物置道場ハ裏手北方ニ移転ス

新築校舎

木造三階建ニシテ建坪百坪総坪数三百坪別紙図面及仕様書ノ通
 ニシテ大正九年四月始業期日迄ニ竣工ス

図書館

鉄筋「コンクリート」三階建ニシテ建坪八十坪総坪数二百四十
 坪新築校舎竣工次第着手シテ大正十年三月迄ニ竣工ノ予定ナリ

履歴書

本貫東京府士族 生年干 姓岡野敬次郎
 族籍東京府士族 支月日慶応元年丑九月

明治十五年 東京大学三学部ニ入学
 同 十九年 七月 法科大学卒業

同 廿一年 七月十九日 大学院入学ニケ年研究
 任法科大学助教

同 廿三年 七月廿日 中級俸下賜 内 閣
 叙奏任官五等

同 廿三年 四月廿二日 上級俸下賜 同 上
 同 十月三日 文官高等試験委員被仰付 内 閣

十二月廿三日 文官高等試験委員被免 同 上
 明治廿四年 七月 六日 叙従七位 宮内省

八月 法学修業トシテ満三ケ年
 独逸国ヘ留学ヲ命ス 文部省

八月十六日 官等俸給令ヲ廢シ俸給制
 ニ改ム

九月 二日 独逸国留学中本官俸給ハ
 下賜相成ラス 文部省

同 廿五年 十一月 廢文武高等官職等級表
 同 廿六年 九月 九日 非職ヲ命ス 同 上

同 廿八年 十一月九日 帰朝
 十二月七日 任法科大学教授 内 閣

叙高等官六等 同 上
 本俸五級俸下賜 文部省

十二月十二日 商法講座担任ヲ命ス 同 上
 十二月廿二日 法典調査会委員被仰付 内 閣

同 廿九年 一月廿日 叙正七位
 同 卅年 十二月廿日 法典ニ関スル政府委員被
 仰付 内 閣

十二月廿三日 陸叙高等官五等 同 上
 同 卅一年 三月 七日 叙従六位 内 閣

三月廿二日 兼任農商務省参事官 同 閣
 叙高等官二等 同 上

四月廿六日 省令審査委員ヲ命ス 農商務省

四月卅日	叙正五位								
五月十三日	法典ニ関スル政府委員被仰付	内閣		四月十日	農商務省文官普通懲戒委員ヲ命ス	農商務省			
六月廿四日	本俸六級俸下賜	文部省		十三日	文官高等懲戒予備委員被仰付	内閣			
廿八日	文官高等試験臨時委員被仰付	内閣		六月十三日	文官高等試験臨時委員被仰付	同上			
廿九日	法典調査会委員ノ職ヲ奉シ起草整理ニ従事シ勲勞不尠ニ付勲四等旭日小綬章ヲ授ケ賜フ	賞勲局		十九日	特許代理業者試験委員長ヲ命ス	農商務省			
	叙勲四等授旭日小綬章			八月九日	関稅訴願審査委員被仰付	内閣			
	法典調査会委員ノ職ヲ奉シ勲勞不尠ニ付金盃一組ヲ副ヘ賜フ	同上		十一月二十日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同上			
七月九日	依頼免兼官	内閣		廿九日	文官高等試験臨時委員被免	同上			
同 卅一年十一月十二日	兼任農商務省参与官	同上		十二月廿八日	陸叙高等官四等	同上			
	叙高等官二等	同上		同三十三年 二月三日	法典ニ関スル政府委員被仰付	同上			
十二月二日	法典ニ関スル政府委員被仰付	同上		四月一日	商法第一講座担任ヲ命ス	文部省			
十六日	文官高等試験臨時委員被免	同上		五月廿日	廢兼官				
同 卅二年 二月六日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同上			兼任農商務省参事官農商務省官房長	内閣			
三月廿七日	学位令第二条ニ依リ法学	同上		六月八日	文官高等試験臨時委員被仰付	同上			

九月十七日	本俸五級俸下賜	文部省			文官高等試験常任委員被仰付	同	上
十月廿七日	依頼免兼農商務省官房長	内閣			仰付	同	上
十一月七日	皇室制度調査局御用掛被仰付	宮内省		廿八日	外交官及領事官試験委員被仰付	同	上
十一月廿九日	文官高等試験臨時委員被免	内閣		三月十七日	政務調査委員被仰付	同	上
十二月廿四日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同上		四月十四日	文官高等懲戒予備委員被仰付	同	上
	員被仰付	同上		十月二日	政務調査委員被免	同	上
	法典ニ関スル政府委員被仰付	同上		廿一日	東京帝国大学評議員ヲ命ス	文部省	
同三十四年 六月廿二日	文官高等試験臨時委員被仰付	同上		十二月八日	法典ニ関スル政府委員被仰付	内閣	
十一月十六日	文官高等試験臨時委員被免	同上		四月一日	廃法典調査会		
十二月九日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同上		四月八日	法典調査会残務取扱ヲ囑託ス	司法省	
同三十五年 一月十五日	陸叙高等官三等	同上		五月廿一日	法典調査会委員ノ職ヲ奉シ尽力勤カラス依テ金杯一組ヲ賜フ	賞勲局	
二月七日	法典ニ関スル政府委員被仰付	同上		十二月七日	法典ニ関スル政府委員被仰付	内閣	
廿日	免兼官	内閣					
	兼任法制局参事官	同上		同三十七年 八月四日	陸叙高等官二等	同上	
	叙高等官二等	同上		同三十八年 六月廿四日	叙勲三等授瑞宝章		
	法制局第一部長ヲ命ス	同上		十月廿八日	東京帝国大学評議員ヲ命		
	政府委員被仰付	同上					

同三十九年 一月十三日	任法制局長官兼内閣恩給局長	文部省	依リ勅旨ヲ以テ帝国学
	叙高等官一等	内閣	士院會員被仰付
	兼任東京帝国大学法科大学教授		南滿洲鉄道株式会社設立
	叙高等官二等	同上	委員被免
十八日	政府委員被仰付	同上	政府委員仰付 <small>（つこ）</small>
廿日	捕獲事件損失補償調査会委員長被仰付	同上	叙勲二等授旭日重光章
	補高等捕獲審檢所評定官	同上	廢帝室制度調査局
	文官高等試験委員長被仰付	同上	同局殘務取扱被仰付
	文官高等試験常任委員被免	同上	賜金千円三十七八年事件ノ功
卅一日	叙從四位	同上	法律取調委員被仰付
	文官高等懲戒委員被仰付	同上	政府委員被仰付
	依頼東京帝国大学評議員ヲ免ス	同上	皇室令整理委員被仰付
六月 八日	外交官及領事官試験委員被仰付	内閣	帝室制度調査局殘務取扱被免
七月十三日	南滿洲鉄道株式会社設立委員被仰付	同上	東洋拓殖会社創立ニ関シ調査委員長被仰付
九月十四日	帝国学士院規程第二條ニ	同上	兼任宮中顧問官
			叙高等官一等
			文官高等懲戒委員任期満了
			文官高等懲戒委員被仰付
			戰時処分求償事件調査委員長ヲ命ス
			臨時仮名遣調査委員會委

同 卅九年	四月 一日	員被仰付 三十七、八年戰役從軍記 章授与	同上		九月 一日	叙高等官二等 文官高等試験委員長	同上
同四十二年	七月十四日	免本官並兼内閣恩給局長 專任東京帝国大学法科大 学教授	同上		廿一日	鐵道院職員救済組合審査 會議長ヲ命ス	同上
同四十一年	七月十七日	文官高等試験委員長被免	同上		廿五日	文官高等懲戒委員被仰付	同上
同四十一年	八月 四日	依願文官高等懲戒委員被 免	同上		十月十一日	商法第一講座担任ヲ免シ 同講座分担ヲ命ス	文部省
同四十一年	七月十七日	文官高等試験委員長被免	同上		十二月七日	陸叙高等官一等兼官	
同四十一年	十二月廿八日	貴族院令第一条四項ニ依 リ貴族院議員ニ任ス	内閣		九日	臨時制度整理局委員被仰 付	内閣
同四十二年	六月 八日	文官高等試験臨時委員被 仰付	同上		十二日	衆議院議員選舉法改正調 査委員被仰付	同上
同四十三年	四月 一日	改高等官俸給令	同上		廿五日	政府委員被仰付	同上
同四十三年	六月十三日	文官高等試験臨時委員被 仰付	同上		四月廿九日	共通法規調査委員長被仰 付	同上
同四十四年	二月 十日	叙正四位	同上		大正 元年	大喪使事務官被仰付	同上
同四十四年	三月 一日	皇室令整理委員被免	内閣		七月卅一日	評議所評議員ヲ命ス	大喪使
同四十四年	八月卅一日	任法制局長官兼内閣恩給 局長	内閣		八月 一日	政府委員被仰付	内閣
		叙高等官一等	内閣		廿二日	大喪使官制	内閣
		兼任東京帝国大学法科大 学教授	内閣		十一月八日	依願免本官並兼官	同上
			内閣		十二月廿一日	任法制局長官兼内閣恩給 局長	同上
			内閣		同 二年	叙高等官一等	内閣
			内閣		二月廿 日	特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ	同上

廿四日	文官高等試験委員長被仰付	同 上	大正 四年	六月二十日	文官高等懲戒委員被仰付	内 閣
付		同 上		一月廿八日	忌引ヲ免ス	同 上
廿六日	政府委員被仰付	同 上		四月十二日	大礼使参与官被仰付	同 上
同 二年	三月卅一日 文官高等懲戒委員 ^(七) 被仰付	同 上		十月卅一日	京都行幸供奉被仰付	同 上
同 二年	四月 五日 共通法規調査委員長被仰付	同 上		十一月十日	大正四年勅令第五百五十四号ノ旨ニ依リ大礼紀念章ヲ授与セラル	賞勲局
同 元年	八月 一日 韓国併合記念章授与	同 上		一月十九日	金杯一箇ヲ賜フ	宮内省
同 二年	六月 九日 依願免官宮中顧問官	宮内省	大正 五年	一月廿 日	廃大礼使官制	
同 二年	七月廿四日 鉄道院職員救済組合審査會議長ヲ命ス	内 閣		四月十三日	行政裁判法中改正	
九月 廿日	任行政裁判所長官				高等官官等俸給令中改正	
廿一日	兼任東京帝国大学法科大学教授				任行政裁判所長官	
	叙高等官一等				兼任東京帝国大学法科教授	
	叙高等官一等			四月 一日	大正三、四年事件ノ功ニ依リ金千五百円ヲ賜フ	
	商法第一講座分担ヲ命ス	文部省		十一月 七日	帝室制度審議會委員被仰付	宮内省
十一月廿二日	大礼使参与官被仰付	内 閣				
	評議會會員ヲ命ス	大礼使				
廿四日	依願文官高等試験委員長被免	内 閣	大正 六年	六月十三日	文官高等懲戒委員被仰付	内 閣
十二月廿七日	叙勲一等授瑞宝章 ^{法律取調委員ノ勲勞ニ依ル}					
大正 三年	三月廿四日 授旭日大綬章 ^{制度制理ノ勲勞ニ依ル}					
	四月十一日 廃大礼使官制					
	四月二十日 叙従三位					

〔欄外注記1〕
「東京府収受・大正八年十二月二十七日・未学甲九七〇四号」

〔欄外注記2〕
「判決一月九日」「施行一月十日」

〔欄外注記3〕
「施行四月十七日」

(欄外注記4)
「完結」

〔大正九年 私立学校 冊の八十一〕

303
G1
2〕